

奈弓連だより

通巻 187号

平成 29 年 9 月号

発行 奈良県弓道連盟

会長 西中 正

編集担当 土谷尚敬 野尻賢司

全日・国体・ねりんピック壮行射会 + 県トーナメント射会

国体の開催が早くなったこともあり、今年の壮行射会は8月20日(日)に橿原公苑弓道場で80名が参加して行われました。全日本・国体・ねりんピックの選手の方々はたくさんの声援を受けて心強く思われたことと思います。また、いつも激励を送って下さっていた新司副会長に代わり今年は、前川彰吾さんが大きく元気な声で選手の皆さんに力強いエールを送られました。

午後はトーナメント射会(国体出場選手との交歓射会)が近的競技の団体戦(団体3人)で行われました。競技の結果は次の通りです。

予選通過チーム

・蔵地 隆文	田中 智	山口 亮二	9 中
・林 秀子	土谷 ひろみ	長濱 有美	8 中
・前川 なつき	上田 浩子	揚田 よう子	8 中
・長濱 正伸	乾 光孝	藤岡 順	7 中
・明崎 静代	森 昌彦	山本 元祥	7 中
・中井 達男	宮島 裕也	綿松 昭寛	7 中
・中西 省五	栗本 範雄	上田 康夫	6 中

国体選手(シード)[成年男子]

・辻本 元威 檜尾 涼 新子 修平

決勝トーナメント

1位: 蔵地 隆文	田中 智	山口 亮二
2位: 長濱 正伸	乾 光孝	藤岡 順
3位: 林 秀子	土谷 ひろみ	長濱 有美
中井 達男	宮島 裕也	綿松 昭寛

(競技部 西田ゆり)

2017 愛顔つなぐえひめ国体

成年男子は本大会に出場するも予選敗退

7月23日、兵庫県立弓道場にて国民体育大会近畿ブロック大会が開催されました。結果は少年男子4位(近的5位、遠的2位)、少年女子5位(近的5位、遠的5位)、成年女子4位(近的5位、遠的4位)、成年男子3位(近的2位、遠的5位)となり、成年男子の国体出場が決まりました。

国民体育大会は9月9日 愛媛県総合運動公園特設遠的弓道場にて遠的予選、9月10日 総合運動公園弓道場にて近的予選が開催されましたが、奈良県選手(奥田章人、今西 達也、新子 修平)は遠的21位、近的23位で、いずれも予選で敗退しました。選手の皆さんご苦労様でした。(事務局)

第3回伝達講習会開催

五段受講者は公認審判委員資格を取得

8月6日橿原公苑弓道場にて第3回伝達講習会が行われました。今回の講習会は学校指導者を対象とした講習会でしたので高体連より4名、中体連より3名の学校指導者の先生方が参加され、主任講師に吉本清己先生、講師に野尻先生、平木先生を迎え開催されました。初めに5名の受講者により一手行射が行われ、続いて座学(伝達事項の説明等)、最後にスポーツ指導員専門科目免除対象者の検定試験の順に進められました。伝達事項は、学校弓道指導者としての心得と指導項目などについてでした。

今回伝達事項とは別に指導項目にあがった動作として審査等で弓返りがしなかった際の弓(弦)の処理についての説明がありました。過去に、弓返ししなかった際に足踏みを閉じ坐してから弦を返しても良いと指導していた時期もあったのですが、「そのまま弓倒しし、物見を戻してから末弭を床につけて弦を返し、末弭を生かした後、足踏みを閉じる。」(弓礼・弓法問答集3頁 Q9. 弓返ししないときの、弓倒しの動作)の周知がなされました。



主任講師からの伝達事項の説明

(指導部 乾 光孝)

奈良県臨時地連審査

初段108名 弐段11名 参段6名 四段2名合格

8月27日に橿原公苑弓道場において第271回定期地連審査が開催されました。結果は次の通りです。

級位 受審者50名 欠席0名 合格48名
(1級46名、2級2名、現級2名)

初段 受審者116名 合格108名

弐段 受審者18名 合格11名

参段 受審者13名 合格6名

四段 受審者8名 合格2名、

福本 幸代(橿原) 金本 恭子(奈良)

合格された受審者の皆さま、お目出とうございます。

(審査部 平木 一史)

**奈良市弓道近的選手権大会兼会長杯争奪戦
会長杯は男子、濱田 耕助選手(奈良大学)
女子、高岡 裕実選手(奈良大学)に**

暑さも和らぎ絶好の弓道日和となった9月3日(日)、奈良市弓道協会主催で第29回奈良市弓道近的選手権大会兼第8回会長杯争奪戦が奈良市弓道場で開催されました。今年は、高校・大学生22名を含め75名が参加して行われました。

大会は、射手が協会副会長の深田紀美子教士六段、第一介添は越智和子五段、第二介添は大門俊美三段による矢渡しで開始されました。



協会副会長の深田紀美子教士六段による矢渡し

競技は四つ矢2立計8射による的中数で競われました。無段の部から始まり、夏休みの特訓で腕を上げた(失礼!)女子高校生が開始早々に4射皆中をするなど盛り上がりを見せました。昼食を挟んで熱戦が繰り広げられました。同中数の部門では射詰による1位決定や遠近による2,3位決定もありました。最高の中数の選手に与えられる会長杯を手にしたのは男女とも奈良大学の弓道部員でした。

競技会結果

無段の部： 1位 大西 菜都美 (帝塚山大学)
2位 平松 由莉 (西ノ京高校)
3位 杉山 士隼 (西ノ京高校)



左から女子会長杯の高岡選手、奈良大学コーチの深田先生、弓道協会の新司会長、男子会長杯の濱田選手

初 弐段の部： 1位 高岡 裕実 (奈良大学)
2位 芳仲 貴久 (西ノ京高校)
3位 太田 保信 (協会)

参 四 五段の部： 1位 濱田 耕助 (奈良大学)
2位 松尾 謙二 (協会)
3位 峯川 真由美 (協会)

称号の部： 1位 西田 ゆり (協会)
2位 小林 保彦 (協会)
3位 平木 一史 (協会)

会長杯 男子： 濱田 耕助 (奈良大学)
女子： 高岡 裕実 (奈良大学)
(奈良支部 松尾謙二)

**全国中学生弓道大会 JOCジュニアオリンピックカップ
香芝中(池田、北村、西川、中村)が女子団体で
予選通過するも1回戦で敗退**

第14回全国中学生弓道大会 JOCジュニアオリンピックカップが全日本弓道連盟中央道場にて8月20日(土)、21日(日)に全日本弓道連盟主催で開催されました。47都道府県中、男子42団体、男子個人42名、女子43団体、女子個人43名の選手が参加。今年度も、前年度と同様に、中央道場と至誠館道場の2会場を同時並行で行う形式で、前日の公開練習でも矢数をかけて調整することができました。大会の期間中、移動の際に若干雨が降ったりもしましたが、競技の間は天候に恵まれた大会でした。

奈良県勢は女子団体の部で決勝トーナメント進出を果たすことができました。多くの方々にご協力、応援して頂き、この結果が出せたと思っております。ご指導頂いた連盟の先生方、大学、高校の先生・先輩方、心より感謝いたします。県中体連として、次は男女で入賞が果たせるよう精進して参りたいと思います。応援ありがとうございました。結果は以下の通りです。

予選結果

男子個人 8射5中以上で通過

野澤 涼 (八木中3年) 8射4中で予選通過ならず

女子個人 8射5中以上で通過

森田菜月 (檀原中2年) 8射3中で予選通過ならず

男子団体 各人8射計24射の総的中上位16チーム通過

大成中 (小南、吉川、清水、内ノ浦)

24射7中で予選通過ならず

女子団体 男子と同様

香芝中 (池田、北村、西川、中村)

24射11中で予選通過

決勝結果

女子団体 1回戦 対 五十市中 (宮崎県)

3中 対 6中 で敗退

(中体連 松田翔太)

増田先生から射礼の心構えや介添について厳しく ご指導をいただく

奈良県弓道連盟副会長 教士六段 深田 紀美子

昭和 53 年、奈良市弓道場が完成し、弓道教室の 指導のお手伝いを始める

大学で弓道を始めたが、奈良に来てからは遠のいていた。橿原公苑弓道場を見て、すてきな道場だと思ったが、橿原まで通うことはできなかった。

昭和 53 年、奈良市弓道場ができたと広報で見て、すぐに弓道場に行き、仲間に入れてもらった。その頃は、まだ人数も少なく 5~6 名くらいでの夜間練習であった。9 月からは、土曜日の弓道教室がはじまり、指導のお手伝いをした。巻藁を 2 台並べ、隣で指導している新司さんの指導方法を盗みながらの必死の指導であったことを覚えている。

昭和 58 年には、石原・岡田・中埜・新司 4 氏を発起人とし、奈良市弓道協会が発足し組織として動くことになった。この年から、奈良女子弓道大会が、翌 59 年には、奈良・わかさ国体が開催された。

わかさ国体の納射で増田美和栄先生の介添え

県連副会長・範士八段・増田美和栄先生に特に稽古をみていただいたのは、この頃からであった。わかさ国体では、納射:増田美和栄先生、介添:河合博子・深田紀美子と女性だけの射礼の機会をいただいた。増田美和栄先生には、射礼の心構えや介添の所作について厳しくご指導をいただいた。翌昭和 60 年には、襷さばきの副読本が発行された。襷さばきは、幸いにも美和栄先生に直接ご指導をいただくことができた。初めのうちは、右手・左手がこんがらがって、なかなか思うようにできなかった。

また、美和栄先生は、礼法の指導もなさっていたので、何度かお稽古に寄せてもらったことがあった。そのときもつ



昭和 59 年、わかさ国体で納射をされた増田美和栄先生の第二介添をさせていただく。

左から河合博子さん、増田先生、そして筆者。

と教わっていたらよかったと今になって思う。着付けの話の中で、「袴を着るときも、着物は着丈に着なさい。胴着丈の着物を着ている人がいるが、袴を脱いだとき何か起こったら、そのまま外に出られないでしょう。」とおっしゃっていた。人には強制しないが、私はその教えを女性としてのたしなみだと思い、今も守っている。

生駒市弓道協会の設立に奮闘

私の居住地は奈良市であるが、勤務地の生駒市にも弓道場を設置したく思い、平成 10 年、私の元上司の生駒市体育協会の池田治会長(当時)のアドバイスに基づき、弓道協会を設立し、生駒市の体育協会に加盟することにした。

次に奈良市弓道協会会長の新司さんに相談し、奈良市弓道協会規約を参考にして生駒市弓道協会規約をまず作成した。そして、県連登録者の中から、生駒市在住者を捜し出し、一人一人に電話をして、生駒市弓道協会設立のため協会員として登録させてほしい旨を伝えた。役員には、会長は早山さん、理事は西野さん・北田さん・山口さん、そして生駒市体協理事は西野さんとし、私は協会が軌道に乗るまではと思い、理事長を務めることにした。

こうして平成 11 年 1 月 1 日に生駒市弓道協会が誕生し、4 月には体育協会への加盟が認められた。そして 5 月には第 28 回生駒市民体育大会に「弓道の部」として参加、県立北大和高校(現在の奈良北高校)の弓道場を借りて大会を行った。

待望の弓道練習場が生駒市に完成

平成 15 年からは、体育協会・体育振興課の主催で生駒市弓道教室を「むかいやま公園体育館」で開催することに。巻藁までしかできないが、必要な弓具類はすべて揃えていただいた。指導は、新司さんを筆頭に、早山さん・西野さん・深田の 4 人を中心に行い、後に山下さんも加わった。毎年 20 名くらいの参加があったが、核となる道場がなく、次の段階に進めず定着しないのが悩みであった。

平成 24 年春、待望の練習場が生駒市体育館と武道館の間のスペースにできあがった。3 月 4 日には生駒市体育協会会長をはじめ関係者の列席の下に、塚開きを行った。当日は来賓の皆様にも弓道の体験をしていただき、練習場としてスタートした。これで行事は、練習場で行えるようになり、私の生駒市へのお手伝いも終わることになった。

今は、自分の稽古を懸命にすることと、今まで先輩・先生方に教えていただいたことを少しでも後輩のみなさんに伝えることができればいいなと思っている。

国民体育大会

近畿ブロック大会に参加して

7月23日、兵庫県立弓道場で行われた近畿ブロック大会に初めて選手として参加しました。この大会で6チーム中、上位3チームに入ると本国体に出場する事ができます。

選手に選んでいただいた、その期待に応えたいという気持ちで大会に挑みました。しかし、自分自身は落ち着いているつもりでしたが、自分が認識している以上に身体が緊張し、射が小さくなってしまいました。気持ちばかりが空回りする中、改めて、普段意識をしていること、よく注意されることを整理して一本一本大切に引くことだけは疎かにしないように心がけました。近的、最後の立ちでは、いつも以上に落ち着き、集中して挑むことができましたが、予選通過をすることはできませんでした。

この大会に出ささせていただき、改めて自分の射技の課題、気持ちの弱さを実感しました。今回の経験を糧にこれからも精進していきたいと思えます。皆様、ありがとうございました。(成年女子 土谷ひろみ)

2017 愛顔つなぐえひめ国体

1本1本に気合いを込めて引きました

初めて国体に出たのが、今年の愛媛国体でした。毎年、国体の時期には勤務先の運動会があり、今年は例年よりも開催が早く個人的にはラッキーという思いがありました。

選手にも選んでいただき、まずは、近畿ブロックに向け毎週土曜日、日曜日を練習に費やしてきました。ブロックでは、何とか競射に勝ち本国体の切符を手にできました。それからは、本国体に向けての強化練習です。自分の課題を克服できるように練習に取り組みました。でも、今まで癖付いてきたものはなかなか治りません。本番が近づくにつれて、監督や会長直々に指導していただくことが多々ありました。

気がつくと、あっという間に国体の当日になっていました。9月9日、第1日目の遠的競技。思うような結果につながりません。翌10日の近的競技では、予選2回目で大転けし、遠近共に予選通過にはほど遠い結果でした。とても悔しく思います。

今、試合を振り返ってみると、あんなに集中して、1本1本に気合いを込めて引いたことは初めてではないかと感じます。それと同時に、今までの練習が甘かったのだと感じます。今年の国体で自分が感じたことをこれからの練習に生かしていきたいです。

最後になりましたが、愛媛の遠い地まで駆けつけてくださった、会長、理事長、強化メンバーの皆さん。そして、奈良の地から応援してくださった皆さん、ありがとうございました。(成年男子 奥田章人)

ねんりんピック秋田 2017に参加して

9月9日から11日まで、秋田県で「秋田につなぐれ！つらなれ！長寿の輪」をテーマに第30回全国健康福祉祭秋田大会(ねんりんピック秋田2017)が開催され、弓道競技に小林英一、大井清源、岡本薫子、千葉健一、平木一史の以上5名が出場してまいりました。

9月8日、奈良県選手団はユニフォーム姿凛々しく京都駅に集合、新幹線で盛岡駅へ。盛岡からはバスにて岩手県のホテル森の風鶯宿へ向かい前泊。夕食会で各競技の奈良県選手の健闘を誓いあいました。

2日目、秋田県に入り総合開会式に参加。天気は申し分なくみんな日焼けの跡が残るほどでした。規模の大きさとアトラクション等のおもてなしに感激です。



左から 大井清源、岡本薫子、小林英一、千葉健一、筆者の各選手

弓道競技は秋田県立武道館弓道場にて10日と11日の2日間にわたり試合が行われました。出場チームは都道府県と政令指定都市から67チームで、我々チームはもう少しで予選通過というところで惜しくも敗退してしまいました。

今回、小林キャプテンを中心に団体としての練習を積み重ねてきましたが、残念ながら結果は出せませんでした。しかし、メンバーの方々と稽古、試合、わずかな時間でしたが観光と非常に楽しい時を共に過ごすことができました。

秋田県の皆様の心からのおもてなしを受けてきました。特に夜美しく踊る伝統の竿燈、迫力あるなまはげと和太鼓のパフォーマンスを直に接することで秋田の文化、心の豊かさを長く忘れることがないでしょう。ねんりんピックに参加させていただいたことに感謝をしています。有り難うございました。

(奈良支部 平木一史)

編 | 集 | 後 | 記

県連副会長の深田先生の随想を読み、奈良県の弓道発展のため40年近く、尽力されてこられたことをあらためて知ることができ、頭が下がりました。

愛媛国体で、近畿ブロックで予選敗退し、悔し涙を流した奥田選手、土谷選手からは、数か月にわたり土曜、日曜返上で練習には励み、学んだことをこれからの練習に生かしたいとの前向きなメッセージが寄せられました。頑張ってください。編集担当 野尻賢司